

知る／みる／考える

私たちの劇場シリーズ vol. 1

私は見えないものです  
見えないことにされるもの  
見えないことにされると言うことは  
見えないことと同じなのです



作・演出：市原佐都子 (Q)

# 妖精の問題

THE QUESTION OF FAERIES  
DELUXE EDITION

2022 **7.2<sub>土</sub> ~ 7.3<sub>日</sub>**  
17:30 開演 13:30 開演

## デラックス

会場：久留米シティプラザ Cボックス

主催：久留米シティプラザ (久留米市)

助成：令和4年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



# 妖精の問題

THE QUESTION OF FAERIES  
DELUXE EDITION

## デラックス

作・演出：市原佐都子 (Q)



才能あふれる新世代の劇作家・演出家のひとり、市原佐都子。この作品は2016年の相模原障害者施設殺傷事件を受けて、作者自身が内面や生きづらさを見つめ、できるだけ偽善的ではない方法であらゆる生／性を肯定しようと試みたものです。タイトルの「妖精」は「見えないもの」の隠喩。現代の日本社会で「見えないこと」にされているもの／しているもの——誰しもが直面してきたであろう差別や偏見を、バンド演奏や漫才、歌、ダンスでユーモラスかつ斬新に描きます。

### 【あらすじ・構成】

一部「ブス」  
作品世界でマイノリティとされる「ブス」の女学生二人。もうすぐ選挙が行われる。最近、存在感を増している「不自然撲滅党」屁当弁の政見放送を二人は見る。

二部「ゴキブリ」  
ラーメン屋の近くに住む貧困夫婦は、家に息する「ゴキブリ」に悩まされている。ある日、夫は大量の害虫駆除剤を焚く。妻は妊娠しており、不意にその煙を吸ってしまい…。

三部「マングルト」  
自分自身の体内常在菌を利用して作る食べ物「マングルト」。その創始者である小室淑子の意思を引き継いだ礼子による「マングルト」についてのセミナー。

久留米シティプラザでは、独自の視点で時代を捉え、表現方法をも模索し応答しようと試みる意欲的な作品をセレクトし「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」として、ご紹介いたします。

・市原佐都子 / 『O』妖精の問題 デラックス  
・村川拓也 / 『Pamirya (パミリア)』  
(2022年12月上演)

この作品は事件そのものを直接的に扱ったのではありませんが、2016年に起きた障害者施設での殺傷事件をきっかけに創作し2017年に初演しました。事件を受けて直面させられた私自身の抱えていた生きづらさや偏見と向き合ってきたものです。作品を通して観客の皆さん一人一人が自分自身、そして自分の生きている社会について考えるきっかけとなれば幸いです。——市原佐都子

# 2022 7.2.土 ~ 7.3.日

チケット発売 5.22 日

17:30開演 13:30開演 【上演時間130分間予定】

※7/2(土)は終演後、アフタートークを開催 登壇者:市原佐都子、木村覚(ドラマトゥルク)  
※受付開始は開演の60分前、開場は開演の30分前  
会場:久留米シティプラザ Cボックス  
チケット料金(全席自由・税込): 一般 3,500円 U25(25歳以下) 2,000円  
※推奨年齢:15歳以上 ※U25チケットは入場時要証明書提示  
※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※託児サービス有(定員有/無料/要事前予約 TEL 0942-36-3000)  
※車椅子でご来場の方は事前に久留米シティプラザまでお問い合わせください。  
チケット取扱:久留米シティプラザ2階総合受付(10:00~19:00/全館保守点検による休館あり)  
久留米シティプラザインターネット予約 kurumecityplaza.jp/pages/ticket

音楽:額田大志(ヌトミック/東京塩麴) 美術:dot architects  
出演:[一部]朝倉千恵子・筒井茄奈子 [二部]大石英史・キキ花香  
[三部]廣川真菜美・富名腰拓哉・緑ファンタ  
演奏:秋元修、石垣陽菜、高橋佑成、額田大志  
照明:魚森理恵 音響:稲荷森健 映像:小西小多郎 衣裳:南野詩恵  
舞台監督:川村剛史(ロームシアター京都) ドラマトゥルク:木村覚 写真:中谷利明  
製作:ロームシアター京都 レパートリー作品

### 【関連事業】

## プレクチャー「劇場で考える〜ジェンダー・多様性〜」

本作品の背景にあるジェンダーやセクシュアリティをめぐる諸課題をテーマにしたトークイベントを行います。

ゲスト:石井勇(MINO BOOKS 店主)、正路佐知子(福岡市美術館 学芸員)  
進行:長津結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院 教員)  
日時:2022年6月11日(土)14:00~15:30  
会場:久留米シティプラザ 中会議室  
料金:無料(要申込) 定員:30名(先着順)  
締切:6月1日(水)必着  
※申込み方法など詳細は久留米シティプラザ公式WEBサイトをご覧ください。

詳細はこちら/



## 市原 佐都子

Satoko Ichihara <作・演出>

劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督。1988年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011年よりQ始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2019年『パッコスの信女—ホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第64回岸田國士戯曲賞受賞。2021年、ノイマルクト劇場と共同制作した『Madama Butterfly』をスイス・ドイツで上演。

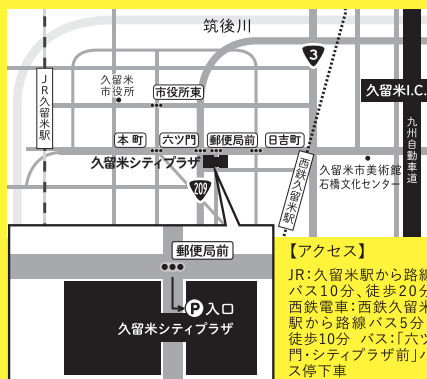


〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町8-1

☎ 0942-36-3000  
(10:00~19:00/全館保守点検による休館あり)

F 0942-36-3087

✉ kcp-j@city.kurume.lg.jp



【ご来場にあたってのお願い】  
ご来場前に、久留米シティプラザ公式WEBサイトにて「新型コロナウイルス感染防止への取り組み」を必ずご確認ください。